

令和 5年 8月 3日

東員町議会

水谷喜和様

東員町議会

片松雅弘

研修報告書

研修期間	令和 5年 7月 25日 (火) ～ 7月 26日 (水)【 2日間】
研修(視察)先	衆議院会館 国土交通省 千葉県 銚子市
目的(テーマ等)	ローカル鉄道に対する支援について
参加議員名 (複数の場合)	水谷喜和・片松雅弘・広田久男・伊藤治雄・大谷勝治・山崎まゆみ
資料添付の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

研修概要、内容、所感

三岐鉄道北勢線策検討委員会で、国土交通省職員に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の一部を改正する法律」の概要が令和5年度4月より見直しがありましたので質疑応答を含め説明を衆議院会館にて受けてきました。

全国的に人口減少等による長期的な利用者の落ち込みに加え、コロナ禍の直撃により、地域交通を取り巻く状況は年々悪化して、特に一部のローカル鉄道は、大量輸送機関としての特性が十分に発揮できない状況になり当町を走る北勢線も赤字路線になっています。

地域交通は、通勤通学や生活基盤を支える大切な足ですが、私たちの住む地域交通の三岐鉄道北勢線は赤字が続き自治体で補助・支援を行っています。

主たる内容は、10年間支援を行い、その後は三岐鉄道が自主運営を行う協定書を交わしています

しかし、平成15年度から三岐鉄道への支援が2市1町の桑名市・東員町・いなべ市の合計が55億円を超え、その後も暫定支援が続き、4度目の暫定支援では令和4年度から6年度の3年間も支援が決まっています。人口割や区間などで負担額は計算されていますが、負担額も増え続け、4年度からの東員町の負担額は、年間6000万円強になります。2市1町の年間支援額は2億3千万になります。

令和6年度にはICカード対応の改札口への対応などでさらに負担増となっています。三岐鉄道の赤字解消のラインの指標は現在の2倍の運賃にしなければ赤字解消できないとの返答があったと聞いています。

このまま恒久的に補助を出し続けることが果たしてよいものなのか、議論していく時期に来ていると思います。

今後、老朽化した車両の更新の費用が大きくなるのしかかってきます。「公共交通量環境の革新等」の交付金の対象になる補助や助成金を活用できれば良いと思います。

銚子電鉄さんとの質疑応答では、常務取締役の柏木さんから鉄道事業者として「ありがとうの向きを変え、地域からありがとうと言われる会社にしたい」と熱く語られました。6億5千万の売り上げの中、鉄道事業は1億2千万残りの売り上げは「ぬれせんべい」の売り上げで「電車を走らせるためには何でもするぞ」とお話しされました。

赤字補填をしてもらわないと熱意のある考え方に感動しました。

銚子電鉄からは、熱意がビシビシ伝わってきます。三岐鉄道には、残念ながらそこは伝わってきません。補助金ありきの会社ではだめだと思います。

三岐鉄道北勢線は通勤通学の生活の鉄道です。沿線自治体もお互い協力し合い、一丸となってアピールの必要があると思いますが、今までの流れを見ると、沿線市町からの補助がある限り、三岐鉄道北勢線は赤字解消できないのではないかと感じます。鉄道事業者にも熱意と情熱と自力で努力する姿勢や実行力が必要です。

3市町での今後の進め方の議論が当然必要ですが、私たち議員も3市町の議員間でも共通の問題として協議していきたいと思います。

2日間の研修は全員協議会で議論でき、とても有意義でした。